# 第 45 回　自然観察会（あいち海上の森）実施報告

自然保護委員長　栗木洋明

平成 30 年 9 月 29 日（土）第 45 回の自然観察会を、瀬戸市の「あいち海上の森」において実施した。今回のテーマは、「キノコの現地観察」を目的としたが、あいにく、台風 24 号の接近による悪天候のため、研修室で講義形式での実施を余儀なくされた。参加者数も、申し込み段階では 40 名であったが、悪天を見越してか、キャンセルが多く、最終的には 32 名の参加となった。

講師は、キノコにおいては、愛知県では第一人者であられる、木村修司先生にお願いをした。9 月に入ってから三重県の男性がキノコの食中毒で亡くなられるという痛ましいニュースが飛び込んできたが、その折にも、多くのマスコミから取材を受けられたとのこと。どんな話が飛び出すか楽しみにしながら自然観察会当日を迎えた。

観察会当日は 8 時 30 分集合にもかかわらず、ほとんどの参加者は 8 時にはあいち海上の森センターに集合し、一部の強者は遊歩道沿いの山林に入り、早くも見本となるキノコを数本採集していた。

開会式後、9 時ちょうどから、キノコの文化をはじめ、食べられるキノコ、毒のあるキノコなど、数多くの写真を見たり、特徴や注意点などを教わったりした。キノコは見た目によく似ているものが多く、見分け方のむつかしさだったり、たくさん収穫した中に 1 本だけ毒キノコが混ざっていたり、また、地域によっては食用とされているものでも、他の地域では食用と考えられていないなどのむつかしさがあることを教わった。したがって、だれしも興味はあるものの、見分け方が本当に難しいということを実感せざるを得なかった。

9 時から 11 時 45 分まで、じっくりとお話を伺うことができ、本当に中身の濃い研修となった。今回はあいにくの悪天候であったが、次回はぜひフィールドに出て、キノコが実際に生育している現場を見ながら観察会を実施したいという思いと、今後、事故にあう人が出ないことを願うことを参加者全員で確認し合い自然観察会を閉じた。